

特別配架(ミュージシャンの執筆本)

3月13日(土)貸し出し開始

女ともだち 静代に捧ぐ	早川義夫	1947年東京生まれ。元ジャックス、元書店主、現在ソロ歌手。主な著書に、『ぼくは本屋のおやじさん』、『たましいの場所』などがある。アルバムに、『この世で一番キレイなもの』『恥ずかしい僕の人生』『歌は歌のないところから聴こえてくる』などがある。本書は、2019年に亡くなった妻に向けた、渾身の書下ろし。涙なしに読めない鎮魂(レクイエム)エッセイ。
真夜中の子供	辻仁成	1959年生まれ。1985年ロックバンド「エコーズ」のボーカリストとしてデビュー。2000年にはテレビドラマ「愛をください」の主題歌として1998年のヒット曲「ZOO」が使用され、再び大ヒットした。1989年に作家デビュー。1997年「海峡の光」(当館蔵書)で第116回芥川賞受賞。江國香織、瀬戸内寂聴との交流も深い。作家としての活動が主だが、音楽、映画等マルチな活動を続行中。本書は、2018年の社会派的な小説。2020年には映画化も予定されている。
しらふで生きる 大酒飲みの決断	町田康	本書は「名うての大酒飲み」として知られた町田さんが、なぜそのような決断をしたのかを振り返りながら、禁酒を実行するために取り組んだ認識の改造、禁酒によって生じた精神ならびに身体の変化、そして仕事への取り込み方の変わるようなど、経験したものにしかわからない苦悩と葛藤、その心境を微細に綴る。全編におかしみが溢れながらもしみじみと奥深い一冊だ。
記憶の盆をどり	町田康	1962年生まれ。1981年パンクバンド「INU」のボーカリストとしてアルバム『メシ食うな!』でデビューし、1996年には処女小説「くっすん大黒」で文壇デビュー、2000年に小説「きれぎれ」で第123回芥川賞受賞。(当館蔵書)以後は主に作家として活動している。本書は、は2019年の最新短編集で、洗練された文章が読む者を酔い心地にする幻想綺譚だ。
ふたご	藤崎彩織	1986年生まれ。若者に人気の男女混合4人組バンドSEKAI NO OWARIでピアノ演奏とライブ演出を担当。研ぎ澄まされた感性を最大限に生かした演奏はデビュー以来絶大な支持を得ている。雑誌「文學界」でエッセイ「読書間奏文」を連載しており、その文筆活動にも注目が集まっている。本書は、初小説であり、第158回直木賞候補作となった。彼は、わたしの人生の破壊者であり、創造者だった。異彩の少年に導かれた孤独な少女。その苦悩の先に見つけた確かな光。
祐介	尾崎世界観	1984年生まれ。4人組オルタナティブロックバンド「クリープハイプ」のヴォーカル・ギター。2012年にメジャーデビュー。現在まで5枚のオリジナルアルバムを発表している。本書は、小説家としての作品『祐介』は「半」自伝小説であり、『尾崎祐介』が『尾崎世界観』になるまで。たったひとりのあなたを救う物語。本著以外に、千早茜との共著「犬も食わない」や最新エッセイ「泣きたくなるほど嬉しい日々に」などがある。
南洋と私	寺尾紗穂	1981年生まれ。父はシュガーベイブのベーシスト故寺尾次郎氏。シンガーソングライターとして、2007年アルバム『御身 onmi』でメジャーデビュー。7枚のアルバムを発表している。ライブではピアノの弾き語り演奏を行う。近年では平田敏子の「富士山」、北杜夫「停電哀歌」などにも曲をつけており、詩先の作曲も得意とする。エッセイストとして様々な雑誌等に連載してきたほか、2018年より朝日新聞書評委員を務めた。「南洋と私」は、サイパン、沖縄、八丈島などに10年を費やし、戦争の痕跡を探しもとめ、生きた証言を拾いつづけたノンフィクション。
地平線の相談	細野晴臣 星野源	《細野晴臣》1947年生まれ 1970年代にロックバンド「はっぴいえんど」で日本語ロックの礎を築く。1980年代はテクノポップユニット「YMO」で全世界に旋風巻き起こす。松田聖子等歌謡歌手への楽曲提供も多く、日本音楽界の重鎮として後進の多くのミュージシャンからリスペクトを集めている。父はタイタニック号処女航海唯一の日本人乗客であった細野正文。 《星野源》1981年生まれ 「SAKEROCK」のリーダーとして、音楽界にデビュー、現在はソロで活動。その他、俳優・コラムニスト等の顔も持ち、複数の連載や刊行物を著しているマルチタレントである。 本書は、2007年から「TV Bros」で連載された人気対談。深遠で心和むトークが堪能できる。